

令和3年度

金沢版総合戦略推進事業実績報告

金沢市では、新型コロナの影響で事業やイベントの開催等が制限される中、十分な感染防止対策を講じた上で以下の事業をはじめ、幅広く地方創生につながる事業を実施しました。

①若い世代に優しく、子育ての喜びを分かち合う まちをつくります

妊娠から出産・育児までの期間を安心して過ごすことができる環境づくりを推進するため、ワンストップ拠点において、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談・支援を実施したほか、身近に援助者がいない家庭にヘルパーを派遣し、産前・産後の妊産婦の家事や育児の負担を軽減するなど、子供達の健全育成に繋がる事業を実施しました。



②金沢の強みを生かし、人々が愛着を持ち、 集うまちをつくります

金沢と継続的に多様な形で関わる「関係人口」の創出・拡大を目指すため、「アフターオリンピック交流事業」として、事前合宿等を実施した海外選手とのオンライン交流の実施や、パラリンピック日本代表選手による「パラリンピアン講演会」を開催し、市民や学生との交流を深めました。



③イノベーションにより産業と雇用が創出される まちをつくります

「子供の独創力育成事業」として、食や工芸などをテーマに、子供達の独創的なアイデアを育むとともに、将来を担う人材育成につなげるプログラムを実施しました。



また、「小規模事業者等デジタル技術活用人材育成事業」として、集客や販売などビジネスに活用できるデジタル技術を学ぶ“ビジネスのデジタル化応援セミナー -WITHコロナの新しい「商い」のカタチ-”を開催し、延べ100人が、キャッシュレスやライブ配信などをテーマに理解を深めました。

④周辺地域と連携し、心地よく暮らしやすいまちをつくります

本市と石川中央都市圏を構成する3市2町（白山市、野々市市、かほく市、津幡町、内灘町）との連携を深め、あらゆる世代が心地よく暮らしやすいまちづくりを目指しています。また、まちなみや生活に木を取り入れ、歴史と調和した金沢ならではの魅力ある持続可能なまちづくりを目指し、「木の文化都市・金沢」創出事業を実施しました。令和3年7月、9月には「木の文化都市・金沢」シンポジウムを開催するなど、市民に広く、生活の中に息づく木の文化や木材の活用について学ぶ機会を創出するとともに、関係団体との協働により、民間施設への木の活用促進や金沢型推進体制の検討に取り組みました。

